

結成20周年  
新たな大躍進  
に向け出発!

# 月刊 動労千葉

国鉄千葉動力車労働組合

〒260-0017 千葉市中央区要町2番8号 (動力車会館)  
電話 (鉄電) 千葉 2935・2939 番  
(公) 043 (222) 7207 番

99.4.12 No. 4948

## 4/6 貨物協議会第8回総会

# 怒りをエネルギーに反撃だ!

貨物協議会第8回総会が、4月6日千葉市民会館において、新小岩・千葉機関区両支部から三十名が参加して開催された。貨物は今年のペアが百円玉ひとつ、昨年の年末手当が二・一ヵ月という賃金抑制がつづき、ともすると活気もなくなるような職場状況にあるなかで、それによめげずあきらめないで闘いぬくことができるかが今問われている。貨物問題は今年が正念場中の正念場だ。新フレイト21・六千人体制と対決し、首切りと合理化、賃金抑制攻撃をはねかえすために、その根源である日貨労解体し、闘う労働組合への一致団結をかちとろう。

総会は、君塚副議長を座長にして進められ、はじめに柴崎議長が次のとおりあいさつを行なった。「貨物の職場は年三回さびしい思いをしている。会社は百円玉出せば労働者がおとなしくなると思っているのか。それになれてしまっている所もある。団結してはねかえしていかねければならない。京葉線への乗り入れも具体的にしろとうとしていく。ペア百円や労働条件など自分たちでなんとかしていかねければならない。貨物協に団結して闘っていこう。」

会議として闘ってほしい。また本部布施副委員長からは、「一番よくないのは何をやってもダメと無気力になること。情勢にたちむかって行くこと、労働組合として激しい議論をやらねばならない。暮れの手当、春闘百円、今年の経営計画などあきらめたらどうしようもなくなる。御用組合のように会社に協力したからといって事態が良くなることはない。会社のしくみをかえなければダメだ。動労千葉はレール使用料を公的負担にしてと主張している。銀行やゼネコンに金をつぎこむなら、温暖化防止のためJR貨物に金を出せるはずだ。この仕事は世の中に必要だ。問題はどんな労働条件で働くかだ。元気を出して選挙で勝つて前に出よう。」

外房線・菅田駅・3052M列車  
安全確認闘争に  
総決起しよう!

動労千葉は、1999年4月1日以降の新賃金の改善および強制配転者の原職復帰、運転保安の確立等の解決を求めて二波にわたるストライキを実施してきた。

以上経過のなかで、千葉支社が外房線特急・3052M列車の菅田駅着発を、3月1日以降副本線に変更した問題は「安全より収入」のJR東日本体質を示して余りあるものである。

千葉支社は、4月1日に至り、動労千葉が団体交渉で要求した安全対策を全て「できない」とした上で、主本線でもより安全な着発ができるにもかかわらず副本線での着発を強行し続けることを通告してきた。

われわれは、これを到底容認できない。

従って動労千葉は、この間、当該・京葉支部を中心に、団体交渉などの取り組みを行い、討論してきた経緯に踏まえ、次の通り安全確認闘争を実施することとし、会社へ通告した。

戦術は次の通りである。

- ① 日時 1999年4月15日以降、当分の間
- ② 対象者 1999年4月15日以降、3052M列車を運転し菅田駅を着発する全組員
- ③ 会社および警察権力からの不当な介入、不当労働行為およびスト破り行為があった場合は、戦術を拡大する

この問題の本質は、「おはようライナー」とか「ハウムタウン」の在り方の根本問題が問われているということである。

戦術的には極めて限られた組員を対象とする闘いであるが、われわれの闘いの根幹をなす質をもった闘いである。

職場討議を深め、他労組の組合員との討議も創り出し、全体の闘いとして貫徹していこう。

大失業と戦争の時代に通用する新しい世代の動労千葉を創りあげよう!